

平成21年度環境省政策評価書（事後評価）要旨

評価実施時期：平成22年4月

担当部局：環境保健部

施策名：（施策7）環境保健対策の推進

施策体系：（目標7-4）環境保健に関する調査研究

評価結果の概要

【達成の状況】

- ①花粉総飛散量や花粉飛散終息時期の予測について、より精緻なモデルを構築できた。
- ②黄砂の健康影響について、国際的知見を収集した上で疫学調査を実施し、知見の集積が進んだ。
- ③電磁界についての知見をまとめた冊子「身のまわりの電磁界について」を作成した。また、熱中症・紫外線については熱中症保健指導マニュアルを作成し、広く一般国民への普及啓発を行った。

【必要性】

- 様々な健康被害をもたらしていると近年指摘されている上記①～③については、国民の健康に密接に関わる重要問題であり、公益性が高い。

【有効性】

- ①花粉飛散予測に関する調査研究の成果を生かして、花粉総飛散量や花粉飛散終息時期の予測を行うとともに、花粉症保健指導マニュアル作成を通じての情報提供を行っており、花粉症に対する政府全体の取り組みの中で重要な役割を担っている。
- ②黄砂の健康影響については、知見の収集及び調査・研究を継続しており、将来的に実態が明らかになると考えられる。
- ③マニュアル等に科学的知見をまとめ、広く一般国民への普及啓発を行っている。

【効率性】

- 関係省庁連絡会議等を活用して、各省との役割分担等の下、調査研究を推進することにより、効率的に進めている。

【今後の展開】

- ①スギ・ヒノキ花粉飛散予測システムの精緻化を進めるとともに、スギ・ヒノキ科以外の花粉への対応を検討していく。
- ②黄砂の健康影響については、専門家の助言を得つつ、引き続き知見の収集及び調査・研究を実施し、実態を明らかにしていく。
- ③電磁界・熱中症・紫外線について、最新の科学的知見を把握し、必要に応じてマニュアル等を更新し、普及啓発をより一層進めていく。